

下肢静脈瘤

●下肢静脈瘤とはどんな病気？

心臓から全身に行き渡った**動脈**は全身の細胞に栄養・酸素を運んだ後、**静脈**となって心臓に帰っていきます。下肢(足)の静脈は重力に逆らって下から上に帰っていきます。そのためには、心臓にかわるポンプが足にも必要です。その役目をするのが**足の筋肉**です。足をわずかに動かすだけで、足の筋肉が静脈を絞り上げて血液を上へ上へと運んでいきます。もうひとつ重要な役目をしているのが、重力によって下へ落ちていく**血液をせき止めるための弁**です。下肢静脈瘤は、この**弁に異常がおきて血液が逆流してしまう病気**です。

●どんな症状、どんな治療法がありますか？

軽症例では「血管が浮き出て気になる」などの美容上の症状だけですが、放置して重症化してくると**筋肉の鬱血症状(だるさ・こむら返り)**、**皮膚の鬱血症状(かゆみ・皮膚潰瘍)**が生じてきます。

保存的療法

① 弾性ストッキング(包帯)による圧迫療法

医療用弾性ストッキングで、足に適度な圧力を与えて余分な血液がたまることを予防し、足の深部にある静脈への流れを助けます。

手術療法(根治手術)

② 高位結紮術

逆流が起こっている最初の部位(逆流が始まる最も高い位置)を糸で縛って、血液の逆流をくい止める方法です。

③ ストリッピング手術

逆流する静脈を引き抜く方法です。

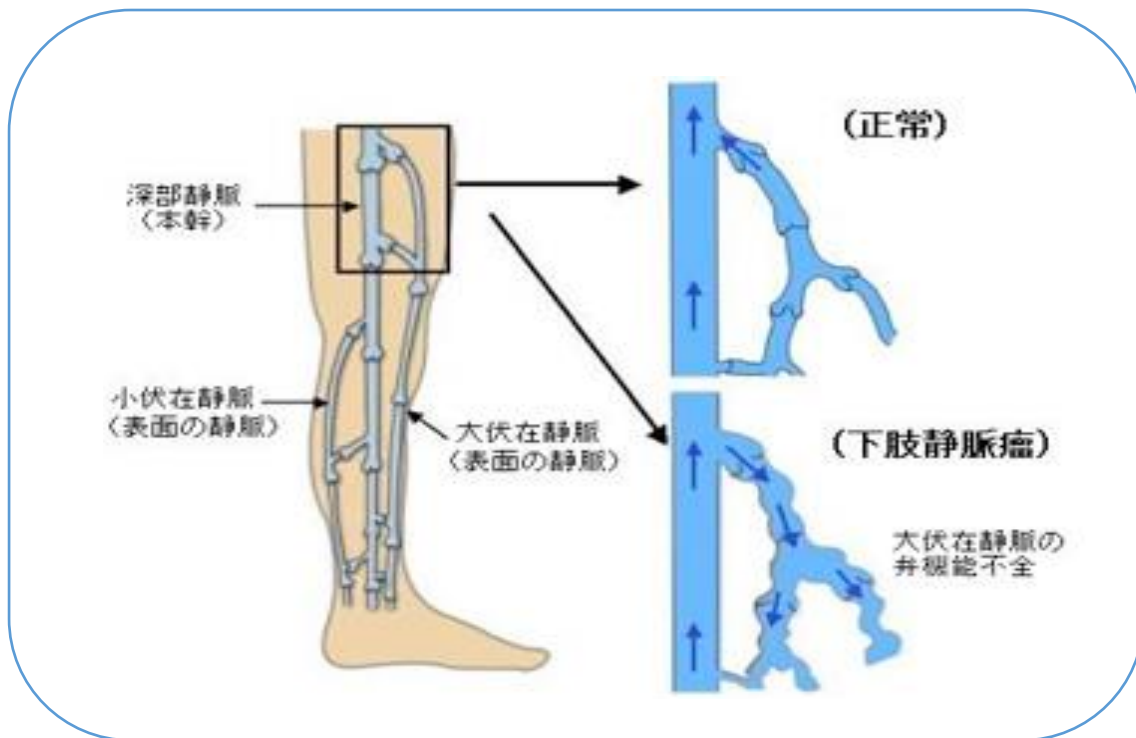
④ 血管内レーザー焼灼術／ラジオ波

血管内にカテーテルを挿入し、血管内部からレーザーまたはラジオ波を照射して血管壁を熱で焼き、閉塞させる方法です。

⑤ 補助(硬化療法)

静脈に血管を固める薬(硬化剤)を注射し、弾性包帯で圧迫して血管をつぶしてしまう方法です。

④については当院で治療を行っていないため、ご希望される方は他の病院へご紹介させていただきます。



下肢静脈瘤の症状を改善するための注意点

- ☆ **立ったままや、椅子に座ったままで、長時間過ごすことはやめましょう**
長時間同じ姿勢をとるときは、途中で足踏みをしたり、つま先を上下に動かしたりして、こうした運動によって、血液のうっ滞を少なくすることが出来ます



- ☆ **夜寝る時には、クッションなどを使用し、足を高くして休みましょう**
足に溜まった血液を減らすには、足を心臓より高くすることが効果的です

- ☆ **皮膚を傷つけないように注意し、いつも足を清潔にしましょう**



- ☆ **弾性ストッキングを装着しましょう**
朝おきて、むくみの少ないうちから夕方まで、または就寝時まで、きちんと装着し続けることが大切です。(医師の指示があった場合は、就寝時も装着してください)

下肢静脈瘤で気になる方は、木曜日外科外来にてご相談ください